第９章

岐阜市のまつり

1 春の祭り・イベント

岐阜市では、四季を通じて多くの祭り・イベントが開催されている。春には、春の訪れを感じさせてくれる「ぎふ梅まつり」、岐阜のまちづくりに貢献した斎藤道三を顕彰する「道三まつり」、300年以上の歴史がある「手力の火祭」などが行われ、そして５月11日には1300年以上の歴史がある「ぎふ長良川の鵜飼」が開幕する。

梅林公園の梅

ぎふ梅まつり

東海地区有数の梅の公園である梅林公園は、約1,000本・約50種類の梅の木があり、花の名所として知られている。ここでは毎年２月中旬から３月上旬にかけて色とりどりの梅が咲き、見ごろになると「ぎふ梅まつり」が開催される。まつりでは撮影会、茶会、演奏会など多彩な行事が催され、人々に春の訪れを告げている。第１回目は、昭和26（1951）年３月１日から３月４日に挙行された。

岐阜まつり

毎年４月５日は伊奈波神社の例祭が行われ、それに合わせて、金（こがね）神社をはじめとする市内の神社の例祭も行われる。４月の第１土曜日の宵宮では、市重要有形民俗文化財の山車（だし）曳（ひ）きそろえや本みこしの練り込みも行われる。伊奈波神社は、ちょうど境内の桜も満開となる頃で、参詣（さんけい）客と花見客で広い境内もいっぱいになる。

現在のように山車等が出されるようになったのは、16世紀末から17世紀初め頃ではないかといわれている。

岐阜まつり協賛　道三まつり

毎年４月の第１土曜日と翌日の日曜日に岐阜まつりに協賛して道三まつりが行われている。戦国の風雲児で井口の里(岐阜)のまちづくりに貢献した斎藤道三をたたえており、岐阜まつり神輿パレードや、道三駅前楽市が開催され、たくさんの協賛イベントが中心市街地一帯で盛大に催される。この日、道三の菩提寺である常在寺では、追悼式(ついとうしき)も行われる。第１回目は、昭和48（1973）年４月４日・５日に挙行された。

手力の火祭

手力雄(てぢからお)神社の神事で、毎年４月第２土曜日に行われている。火薬をふんだんに使った火の祭典で、御幣行灯(ごへいあんどん)、火瀑(ひだき)=火の滝、立火棚の手筒花火、山焼などが豪壮に繰り広げられる。約300年の歴史があり、岐阜県の重要無形民俗文化財にも指定されている。

高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン

平成12（2000）年のシドニーオリンピックで金メダルを獲得した岐阜市出身の高橋尚子氏の名前が冠についた日本で唯一の大会。平成23（2011）年から開催されている。コースの特徴は、岐阜メモリアルセンターを発着点に、柳ヶ瀬、岐阜駅、川原町などの岐阜市の名所が盛り込まれており、走りながら岐阜の観光ができる。毎年、約１万人のランナーとともに世界に名だたるトップランナーが岐阜の街を駆け抜け、とても活気のある大会である。また、令和6（2024）年現在、世界陸連（WA）のゴールドラベル大会として世界に誇れる大会となっている。

2 夏の祭り・イベント

岐阜市の夏は鵜飼の季節。長良川では毎夜、鵜舟の篝火が川面に映し出され、幽玄の世界が繰り広げられる。さらに、この季節は岐阜市の夜に彩りを添えるイベントが目白押し。「岐阜城パノラマ夜景」や花火大会をはじめ、「長良川薪能」など、金華山や長良川を背景にした壮大なイベントが行われる。

ぎふ長良川の鵜飼

長良川まつり

毎年７月16日に神明神社で水難防止と鮎供養を兼ねて行われる祭事。当日は、鵜匠をはじめとする関係者による鮎供養や観覧船の安全運航祈願のほか、三重塔、鳥居をかたどった、提灯船がお披露目される。

長良川花火大会

全国から花火師が集まり技を競い合う、歴史的・規模的にも全国有数の花火大会。夏の夜空に美しい大輪の花が次々と描き出され、壮大なスターマインや仕掛け花火、さらには伝承花火から新作花火まで、闇夜がカラフルな色に染め上げられる。

戦時中は、昭和12（1937）年以来９年間中断していたが、終戦後、全国花火大会（岐阜新聞主催）は昭和21（1946）年８月10日に、全国選抜長良川中日花火大会（中日新聞主催）は昭和32（1957）年に、それぞれ第１回目が開催された。

平成31（2019）年までは、岐阜新聞社、中日新聞社が別々に主催し、年２回開催していた。令和５（2023）年からは、「ぎふ長良川花火大会」として、実行委員会形式により開催している。

長良川薪能

岐阜城と金華山を背景に、清流長良川の河原に設けられた舞台で能と狂言が舞われる。長良川の水面に浮かぶ鵜舟の篝火から火入れを行う演出は、全国の薪能の中でも特に美しく情緒にあふれ、観客を幽玄の世界へと誘う。市主催で行った初回の開催は、平成元（1989）年８月４日である。

岐阜城パノラマ夜景

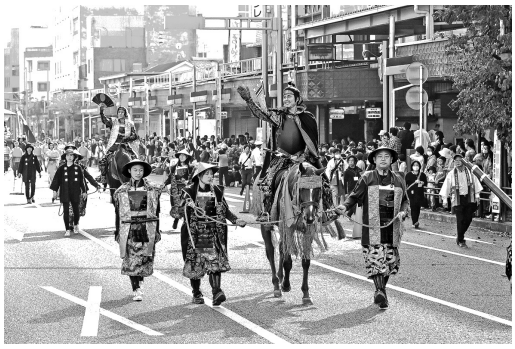
平成13（2001）年に、岐阜城築城800年記念事業として始まった。以来、毎年期間限定で標高329mの金華山山頂にある岐阜城の開館時間を夜間まで延長し「岐阜城パノラマ夜景」を実施している。天守閣の４階からは、眼下に岐阜市内の繁華街のきらめき、遠方には名古屋市の街灯りを見渡すことができ、夜景を360度の大パノラマで楽しめるスポットとして人気を集めている。

3 秋の祭り・イベント

華やかな夏が過ぎ、鵜飼が閉幕する秋。高く澄み渡った空の下、斎藤道三とともに岐阜市にゆかりのある戦国武将・織田信長の偉業をたたえるとともに、産業振興を目的として、「岐阜市産業・農業祭～ぎふ信長まつり～」が開催される。また、金華山の木々が紅葉する時期には、麓（ふもと）の岐阜公園で「菊人形・菊花展」が開かれる。

岐阜公園

岐阜市産業・農業祭～ぎふ信長まつり～（旧ぎふ信長まつり）



岐阜市産業・農業祭～ぎふ信長まつり～は令和４(2022) 年よりぎふ信長まつりと岐阜市農業まつりを共同開催するもので、名前を新たにして毎年11月の第１土曜日と翌日の日曜日に行われる秋のまつり。メインは「信長公騎馬武者行列」で、岐阜のまちづくりに貢献した織田信長公を称え、ぎふ信長ダンスステージやぎふ信長駅前楽市が催される。また、農業まつりとして、地元食材、地場産品の購入ができる。

この日、織田信長の父子廟がある崇福寺では、追悼式も行われるなど、たくさんの協賛イベントが、中心市街地一帯で盛大に催される。

ぎふ信長まつりの第１回目は昭和28 (1953) 年４月４日・５日に挙行され、昭和32 (1957) 年に商業振興策の一つとして秋のまつりとなった。

菊人形・菊花展

10月下旬から11月下旬にわたって岐阜公園内で開催される「菊人形・菊花展」。表と裏の色が違う岐阜発祥の「美濃菊」や「山菊」、「大菊」など愛好家によって大切に育てられた約3,000鉢の菊が一堂に展示される。菊人形や菊花庭園も人気。

中山道のまつり

岐阜市内には、江戸時代の交通の大動脈であった五街道の一つ中山道が通っており、美濃中山道最大の加納宿と長良川右岸（西岸）の河渡宿の二つの宿場町があった。現在では、宿場町にちなんだお祭り「祭いこまい中山道河渡宿」が10月末に行われている。

4 冬の祭り・イベント

岐阜市ではそれほど雪は降らないが、年に数回は雪が積もり、長良橋や金華山を白銀の世界に変え、岐阜城も雪化粧し、いつもと違う景色を楽しむことができる。この寒い季節には、「池ノ上みそぎ祭」をはじめ、伝統のある祭りが神社や寺院で行われ、毎年多くの観光客で賑わう。

冬の岐阜城

池ノ上みそぎ祭

葛懸神社のみそぎ祭で、別名「池ノ上裸祭」。昔から伝わるまつりで、かつて大飢饉があってからは重要な行事となった。みそぎは、毎年12月第２土曜日に行われ、厄男を中心として裸(下帯)の男たちが厳寒の長良川に入水し行う。１年中の罪科をはらい清めて、願いごとがかなうよう祈祷をするまつり。

こよみのよぶね

岐阜市出身のアーティスト日比野克彦氏が監修し、毎年冬至の日に多数の市民ボランティアが参加して行われる冬の風物詩。数字をかたどった巨大な行灯を屋形船に乗せ、長良川を遊覧する。年の瀬、岐阜の豊かな自然の中で、和紙や竹、提灯といった伝統文化が生かされた行灯に、幽玄かつ芸術的な美しさをみることができる。平成18（2006）年から開催されている。

大龍寺だるま供養

大龍寺は、粟野にある寺院。毎年、初観音の１月中旬に行われる恒例行事のだるま供養の日は、多くの参拝者で賑わっている。願いを成就させ、役目を終えただるまは読経の中で焼かれ供養される。

第１回目の開催は、昭和38（1963）年である。

玉性院節分つり込み祭り

毎年２月３日の節分の日に、加納天神町の玉性院で行われるまつり。この「つり込み祭り」は、厄除けと開運を祈る伝統行事で、３日の夜「赤鬼」を乗せたみこしと「お福さん」を乗せた御所車が加納の街中を練り歩く。そして境内に入ると、赤鬼とお福さんが本堂につり込まれ、まつりは最高潮となる。この後、集まった参拝客には福豆がまかれる。

第１回目の開催は、昭和27（1952）年である。

全日本学生落語選手権「策伝大賞」

岐阜市が取り組んでいる「岐阜市笑いと感動のまちづくり事業」のシンボルイベントとして開催されている大会。

落語の祖と言われる郷土出身の「安楽庵策伝」上人を顕彰するとともに、日本の伝統的な話芸文化である落語の発展、次代の担い手の育成と交流の場を提供することによるまちの賑わいの創出を目的として、毎年２月頃に開催している。第１回目は、平成16（2004）年２月21日から２月22日に開催された。

毎年、策伝大賞の決勝大会では、桂文枝師匠・立川志の輔師匠が、審査員を務めており、「落語の甲子園」として落語を愛する全国の学生が練習の成果を競い合っている。